

## 教育課程編成にあたっての確認事項

- 「しまね教育魅力化ビジョン」「しまねの学力育成推進プラン」の内容を全教職員で確認し、島根県が目指す教育について理解している。
- 教育課程全体で、児童生徒にどのような資質・能力を育成していくかが明確になっている。
- 学校で育成したい資質・能力に向け、必要な教育の内容を効果的に配列している。
- 教育課程の評価について、時数が確保されているかだけを評価するのではなく、客観的なデータ等に基づき、「教育課程の編成（計画）」、「教師が何をどう教えたか（実施）」、「児童生徒が何を学んだか、何を身に付けたか（評価）」、「授業の改善（改善）」のPDCAサイクルにより改善を図っている。
- 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせている。
- 自然災害、インフルエンザ等の感染症等による欠時数の見込みも踏まえて、年間総予定授業時数、各教科等の予定授業時数の計画を立てている。不測の事態に備えることのみを過剰に意識して標準授業時数を大幅に上回って教育課程を編成する必要はない。
- 授業時数について点検し、特に、標準授業時数を大幅に上回って（年間1,015単位時間に対して107%目安の1,086単位時間以上）いる学校は、見直すことを前提に点検を行い、指導體制に見合った計画に見直しをしている。また、学校行事について、精選・重点化、準備の簡素化・省力化を図っている。
- 指導内容の確実な定着を図るため、指導方法・指導體制の工夫改善を図りながら、各教科等の年間の標準時数を確保している。
- 各学年において、学期、月ごと等に授業時数の実績や学習の状況等を点検・評価する体制が整っている。
- 学校経営概要に示された各全体計画及び情報モラルの指導ガイドラインを作成している。
- 各教科等の年間指導計画はもとより、観点別学習状況の評価が効果的に行われるよう、評価規準を設定している。

※教育課程の編成にあたっては、「小学校・中学校 教育課程の編成・実施の手引－Q&A－（平成30年3月）」を参考にすること。

しまねの教育情報 Web E10S  
教育課程の編成



### 【カリキュラム・マネジメントの3つの側面】

各学校が設定する教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づきどのような教育課程を編成し、どのようにそれを実施・評価し改善していくのかという「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められています。カリキュラム・マネジメントには次の3つの側面があります。

- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ②教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。